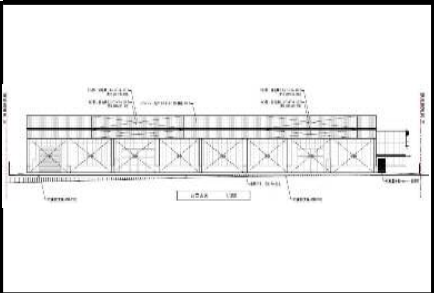


# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) コーナン浜松西伊場店 新築工事	階数	地上1F
建設地	静岡県浜松市中区西伊場町2300番189	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、防火地域指定なし	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年02月 予定	評価の実施日	2023年06月20日
敷地面積	7,190 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 山田設計 坂口 博文
建築面積	3,141 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,992 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.7

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.8

**LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。		その他 特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 南面に高窓を利用している。JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。窓システムSC: 0.24/0.88=0.27、U=3.53(W/m <sup>2</sup> K)、外壁: U=1.80(W/m <sup>2</sup> K)、屋根: U=0.33(W/m <sup>2</sup> K)、床:	<b>Q2 サービス性能</b> 売り場の天井高: 3.98m。給水VP(B)、排水VP(B)、冷媒管(C)、Eは不利用。耐震クラスA。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 特になし。
<b>LR1 エネルギー</b> BPI <sub>m</sub> =0.87、BEI <sub>m</sub> =0.22。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> LGS使用している。発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が36%。燃焼機器を使用しません。駐車スペースを確保している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要				
建物名称	(仮称)コーナン浜松西伊場店 新築工事	BEE	1.2	BEEランク
		B+	★★★	

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.1	/5		よい
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.4	/5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点	4.1
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①窓システムSC:0.24/0.88=0.27、U=3.53(W/m<sup>2</sup>K)、外壁:U=1.80(W/m<sup>2</sup>K)、屋根:U=0.33(W/m<sup>2</sup>K)、床:U=0.00(W/m<sup>2</sup>K)</p> <p>②南面に高窓を利用している。</p> <p>④給水VP(B)、排水VP(B)、冷媒管(C)、Eは不利用。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	昼光利用設備	
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ③	昼光制御	
	2.2.2 ④	躯体材料の耐用年数	
	2.2.3 ④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
2.2.4 ④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
2.2.5 ④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
2.2.6 ④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
2.2.6 ④	主要設備機器の更新必要間隔		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>特になし。</p>	Q-3 1	⑤	生物環境の保全と創出
<p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦BPI<sub>m</sub>=0.87。</p> <p>⑨BEI<sub>m</sub>=0.22。</p>	LR-1 1	⑦	建物外皮の熱負荷抑制
<p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。</p> <p>⑫LGS使用している。</p> <p>⑬発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。</p>	2	⑧	自然エネルギー利用
	3	⑨	設備システムの高効率化
	4 4.1	⑩	モニタリング
	4.2	⑩	運用管理体制
	LR-2 1 1.1	⑪	節水
	1.2 1.2.1 ⑪	雨水利用システム導入の有無	
	1.2.2 ⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
	2 2.1	⑫	材料使用量の削減
	2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用
	2.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
2.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
2.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
3 3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用	
3.2 3.2.1 ⑬	消火剤		
3.2.2 ⑬	断熱材		
3.2.3 ⑬	冷媒		
<p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出率が36%。</p>	LR-3 1	⑭	地球温暖化への配慮
2 2.2	⑮	温熱環境悪化の改善	
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点	2.9
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑰耐震クラスA。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性	
	2.1.2 ⑯	免震・制振性能	
	2.4 2.4.1 ⑰	空調・換気設備	
	2.4.2 ⑰	給排水・衛生設備	
	2.4.3 ⑰	電気設備	
	2.4.4 ⑰	機械・配管支持方法	
	2.4.5 ⑰	通信・情報設備	
	2.4.5 ⑰	通信・情報設備	
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点	2.4
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑲階高:4.95m。</p> <p>⑳0.1≦[壁長さ比率]&lt;0.3。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1 ⑲	階高のゆとり	
	3.1.2 ⑲	空間の形状・自由さ	
	Q-3 3 3.1 ⑲	地域性への配慮、快適性の向上	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>特になし。</p>	Q-3 3 3.1	⑲	地域性への配慮、快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点	2.5
<p>■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/③まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上)</p> <p>特になし。</p>	Q-3 1	②	生物環境の保全と創出
	2	③	まちなみ景観への配慮
	3 3.2	④	敷地内温熱環境の向上
<p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>特になし。</p>	LR-2 2 2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材
LR-3 2 2.2	⑮	温熱環境悪化の改善	